

上北農業生産情報 第1号

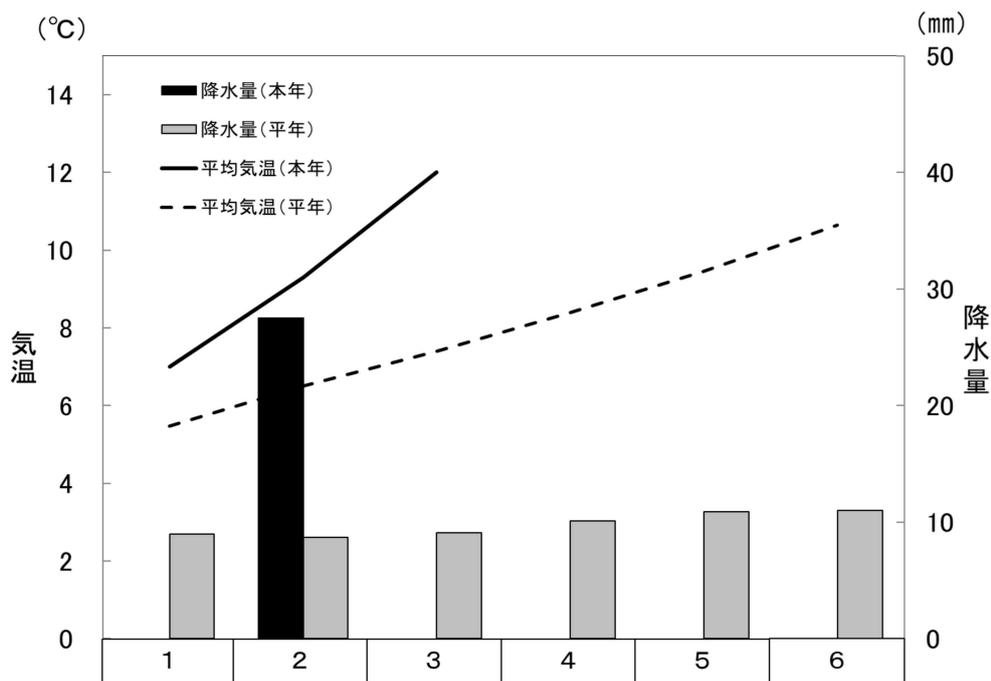
令和6年4月23日
上北地域県民局地域農林水産部長

春の農作業安全運動展開中（実施期間：令和6年4月1日～令和6年5月31日）

【農作業事故を防ぐポイント】

- 作業環境に危険な箇所がないか確認し、改善・整備を行いましょう。
- シートベルトの着用など、農業機械の転落・転倒対策を徹底しましょう。
- 家族や周りの人など、地域全体で声をかけ合いましょう。

気 象



4月半旬別気温・降水量の推移（十和田アメダス）

【4月】

- ・平均気温は、第1から第3半旬のいずれも平年より高かった。
- ・降水量は、第1、第3半旬は平年より少なく、第2半旬（4月9日のみ降雨あり）は平年より多かった。
- ・日照時間は、第1から第3半旬のいずれも平年より多かった。

【4月の気象（十和田アメダス）】

項目 時期	平均気温°C		最高気温°C		最低気温°C		降水量 mm		日照時間 h	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1半旬	7.0	5.5	12.6	10.9	1.3	0.0	0.0	9.0	36.3	29.8
第2半旬	9.3	6.5	16.5	12.1	1.7	0.9	27.5	8.7	43.8	30.5
第3半旬	12.0	7.4	20.6	13.2	3.9	1.6	0.0	9.1	55.0	30.8

注) 各半旬の気温は5日間の平均、日照時間及び降水量は5日間の合計

東北地方 1か月予報(4月20日から5月19日までの天候見通し)

令和6年4月18日 仙台管区气象台発表

- 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が少ないでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。
- 向こう1か月の日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

水 稲

《は種状況》

管内のは種始め（5%進ちよく）は平年より2日早い4月7日、は種最盛期（50%進ちよく）は平年並の4月14日であった。

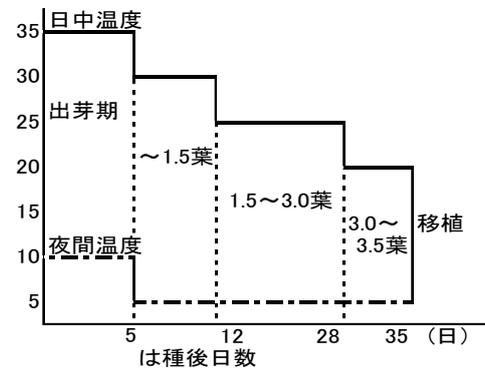
【は種進ちよく状況】

項目 区分	水稻作 付面積 (ha)	4月15日現在 は種面積		年次	は 種		
		(ha)	(%)		始 (月/日)	最盛期 (月/日)	終 (月/日)
上北管内	7,102	4,228	59.5	本年	4/7	4/14	
				平年	4/9	4/14	4/21

《今後1か月間の主な作業》

1 育苗管理（中苗）

- ア 育苗ハウスやトンネル内に正確な温度計を設置し、随時温度を確認しながら、苗の生育に合わせたきめ細かな温度管理を行う（右図参照）。
- イ 降霜や低温が予想される場合、シルバーポリトウ等の被覆資材で苗を被覆するとともに、石油ストーブ等の暖房器具も併用し、保温する。
- ウ 田植え1週間前頃からは、霜や強風の心配がない限り夜間もハウスやトンネルを開放し、外気に慣らして丈夫な苗に仕上げる。



2 水管理

- ア かん水は、箱土が乾いて苗の葉先が巻き始めたら、午前中に育苗箱の底までしみ込むよう十分に行う。
- イ 機械的に毎日かん水すると徒長・軟弱な苗となり、病害が発生したり、田植え後の生育にも影響するので、箱土の乾燥具合を判断してかん水する。

3 病虫害防除

- ア いもち病や初期害虫等を予防する箱施用剤は、薬剤毎に使用時期や方法が異なるため、農薬の登録内容等を確認して適正に使用する。
- イ 水稻の育苗ハウス跡地に他作物を栽培する場合、いもち病等の予防防除は、ハウス外に育苗箱を並べて箱施用剤を処理するか、本田防除に切り替える。

4 本田管理

- ア 畦畔のかさ上げと補強等
低温時15~20cm程度の深水管理を行えるように畦畔のかさ上げ・補強をする。
- イ 本田施肥
 - ・食味・品質の向上と気象の変動に対応できる米づくりを行うため、地帯別・品種別の施肥基準を守る。特に、多肥栽培は食味・品質の低下を招くので行わない。
 - ・低温や病害等に対する抵抗力を高めるため、堆肥等の有機物やケイカル等の土壤改良資材を積極的に施用する。
- ウ 代かき、田植えの準備
 - ・代かきは、田面に高低差が生じないように、丁寧に行う。
 - ・田植えの適期は、日平均気温が13℃以上となる時期が目安である（十和田で5月15日頃）。機械の点検整備等を早めに行い、田植えの準備を進める。

小麦

《積雪の状況》

十和田市アメダスの消雪日は3月15日で平年より4日遅く、積雪期間は23日で長期積雪にはならなかった。

調査地	年次	根雪始め	根雪終わり	消雪日	長期積雪期間
十和田市 アメダス	本年	2/21	3/14	3/15	-
	平年	12/25	3/10	3/11	75日
	前年	1/15	3/1	3/2	46日

注) 「根雪」とは積雪の継続期間が30日以上続いている状態のことで、「根雪」＝「長期積雪」のこと。平年値は平成13年～令和5年の平均

《生育状況》

- 1 県生育観測ほの4月10日現在の生育は、草丈は平年を上回り、茎数は平年を下回っている。幼穂形成期は平年より2日遅い4月1日であった。
- 2 雪腐病の発生は例年より少なく、うどんこ病の発生もほとんどみられなかった。

【県生育観測ほの生育状況（品種：ネバリゴシ）】

調査地	年次	は種日 (月/日)	4月10日現在		幼穂形成期 (月/日)
			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	
十和田市相坂	本年	10/7	19.2	1,244	4/1
	平年	9/28	18.8	1,416	3/30
	前年	10/6	22.7	1,746	3/23

注) 平年値は平成23年～令和5年の平均値

《今後1か月の主な作業》

- 1 追肥

一穂粒数を確保し子実のたんぱく質含有量を高めるため、止葉抽出期（平年5月上旬）に追肥を行う。追肥量は10a当たり窒素成分で2kgを基準とするが、ほ場の地力や茎葉の繁茂状況、葉色等を考慮して増減する。

※止葉抽出期：止葉が出現した茎が全体の4～5割に達した時期
- 2 病虫害対策

ア うどんこ病の防除は、止葉直下葉での発生直後に行うと、上位2葉での発生を少なく抑えることができる。

イ 赤かび病の防除は1回目を開花始め～開花期（平年5月下旬）、2回目をその7日後に行い、予防散布を徹底する。

大豆

《今後1か月の主な作業》

- 1 排水対策

転作田に作付けする場合は、明きよや弾丸暗きよを設置し排水対策を徹底する。
- 2 土づくり

ア 大豆の生育に適した土壌酸度はpH6.0～6.5である。酸性の強いほ場や転作田では生育不良や根粒菌の活性低下を招くため、苦土石灰などで酸度矯正する。

イ 出芽、苗立ちを揃えるため、ロータリーで碎土し、丁寧に整地する。

ながいも

《掘取作業状況》

春掘り作業は例年並の3月16日頃から始まった。好天に恵まれたことから作業は順調に進んでおり、4月末には掘り取り終了となる見込みである。

《今後1か月間の主な作業》

1 収穫

地温の上昇に伴い芽が動き始めるので、できるだけ早く春掘作業を終える。

2 植付け準備

ア 畑の準備

・土壌改良資材は、土壌診断結果に基づいて施用する。

イ 種いもの準備

・ウイルス病等の被害がなく、形状の良いものを選び、大きさ別に分ける。
・土壌病害を防ぐために、種子消毒を行う。

3 植付け

ア 50～100g程度の子いもは頂芽を付けたまま、5月上旬に植付けする。

イ 100～150g程度の子いもは、頂芽を切除して5月中旬～6月上旬に植付けする。

ウ 切いもは120～150g程度に切断して、5月下旬～6月上旬に植付けする。

4 種子生産

むかごによる1年子生産は4月下旬～5月上旬に植付け、小切片による2年子生産は5月下旬～6月上旬に植付けする。

5 輪作

連作による土壌病害を防ぐため、輪作を行う。

にんにく

《生育状況》

1 県生育観測ほの4月10日現在の生育は、草丈31.1cm(平年比100%)、生葉数4.8枚(平年比109%)と平年並である。

2 一般ほ場も生育は概ね平年並に推移しており、管内のりん片分化期は「4月15～20日」の見込みであるが、雪消えの早い地域では4月15日に達している。

さび病の初発は確認されていないが、凍雪害の影響による腐敗株が散見されている。

【生育状況(草丈、生葉数は4月10日現在)】

調査地	年次	植付 月日	草丈 (cm)	生葉数 (枚)	りん片 分化期
七戸町榎林	本年	10/17	31.1	4.3	4/17
	平年	9/29	31.2	4.4	4/18
	前年	10/ 2	33.7	4.9	4/15

注) 平年値は平成26年～令和5年までの平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 病害虫防除

ア 春腐病やさび病は、降雨や濃霧が感染のきっかけとなるので、気象予報等を参考に、降雨前や濃霧後の予防防除を行う。

イ 春腐病などの腐敗株は伝染源となるので、必ず抜き取ってから、薬剤散布する。

ウ さび病は病斑を発見しだい、効果の持続期間が長い薬剤を選択して初期防除を徹底する。その後もほ場をよく見回り、新しい病斑を確認したら再散布して蔓延防止を図る。

エ 使用する薬剤の「総使用回数・収穫前日数」に注意し、薬液の散布量は生育量に応じて増やしながらか、薬液は葉裏にも十分に付着するように丁寧に散布する。

2 管理作業

- ア 複数株立ちしている株は、生育の良い方を残すように、早めに不要株を抜き取る。
- イ 葉色が淡く生育が停滞しているほ場や葉先枯れが目立つほ場では、根張り状態を確認するとともに、葉面散布剤を利用しながら追肥作業を進める。

春だいこん

《は種・生育状況》

- 1 県生育観測ほ（トンネルマルチ栽培）のは種は3月28日で、3月の降雪の影響で平年より9日遅かったが、出芽は良好だった。4月10日現在、は種後の気温がやや低く推移したため、本葉抽出が確認できる程度となっている。
- 2 一般ほ場のトンネル栽培のは種は、3月の降雪で平年より2週間程度遅い3月23日から始まり、26日が最盛期、3月末にはほぼ終了した。
べた掛け栽培のは種は、平年並の3月25日から始まり、平年より5日程度早い4月8日が最盛期となった。

【県生育観測ほの生育状況（品種：春の星）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	4月10日現在	
			葉長 (cm)	葉数 (枚)
おいらせ町内山平	本年	3/28	—	—
	平年	3/19	7.9	2.4
	前年	3/16	8.9	3.1

注) 平年値は令和5年までの過去10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 温度管理

密閉したままのトンネル内は日中に高温となりやすく、やけなどの障害が生じる恐れがあるため、生育ステージに応じた適正な温度管理を行う。ただし、気温が高い日が続く場合は生育ステージに限らず穴開けを行う。

春夏にんじん

《は種・生育状況》

- 1 県生育観測ほのは種は、3月の降雪の影響でトンネル栽培のは種期を逸してしまい、今年度はべた掛け栽培となった。そのため、は種期は3月26日で平年より13日、前年より11日遅かった。発芽揃いは4月中旬と見込まれる。
- 2 一般ほ場のトンネル栽培のは種は3月23日から始まり、最盛期は例年より5日遅い3月26日だった。
べた掛け栽培のは種は3月30日から始まり、最盛期は例年並みの4月8日で、終わりは4月20日頃の見込みである。

《今後1か月間の主な作業》

1 温度管理

トンネル栽培では、生育ステージに応じて適正な温度管理を行う（出芽～4葉期は30℃以下、5葉期以降は25℃以下とする）。

ごぼう

《今後1か月の主な作業》

1 畑の準備

- ア 排水対策を徹底し、土壌診断に基づき土壌改良資材を施用して土づくりを行う。
- イ やけ症を未然に防止するため、未熟有機物や過剰な堆肥施用はしない。
- ウ 土壌消毒を行う場合は使用上の注意を守る（クロルピクリン剤などの土壌くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等（厚さ0.03mm以上または難透過性資材）で被覆する）。

2 は種・防除

適期には種し、アブラムシ類の防除を行う。

ばれいしょ

《植付・生育状況》

- 1 県生育観測ほの植付けは平年より6日早い3月25日に行われた（前年3月25日）。
- 2 一般ほ場のマルチ栽培での植付作業は、降雪の影響で前年より1週間程遅い、3月24日から始まり、3月29日が最盛期で4月20日で終了した。

《今後1か月間の主な作業》

1 芽出し

マルチ栽培では、萌芽が進んだら適期に穴をあけ、順次芽出し作業を行う。

りんご

《生育状況》

- 1 十和田市米田地区の発芽日は、「ジョナゴールド」が平年より1日早い4月2日、「王林」が平年より1日早い4月3日、「ふじ」が平年より3日早い4月5日であった。
- 2 展葉日は、「ジョナゴールド」が平年より3日早い4月11日、「王林」が平年より3日早い4月12日、「ふじ」が平年より3日早い4月14日であった。
- 3 今後も気温は高く推移すると予想されることから、ふじの開花日は、平年より6日早い5月1日頃と見込まれる。

【県生育観測ほの生育状況】

調査地	品種 生態	年次	ジョナ ゴールド	王 林	ふ じ
		十和田市米田	発芽日	本年	4/ 2
平年	4/ 3			4/ 4	4/ 7
十和田市米田	展葉日	本年	4/11	4/12	4/14
		平年	4/14	4/15	4/17

注) 平年値は、「ジョナゴールド」「王林」が平成22年～令和5年までの過去14か年の平均値、「ふじ」は平成19年～令和5年までの過去17か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 霜害対策

花芽の耐凍性は生育の進みとともに低下するので、気象情報に十分注意して霜害対策に万全を期す。

- ア 燃焼法

- ・ 燃焼資材をあらかじめ園地の邪魔にならない所に配置しておき、霜注意報が出たら点火位置に移動する。地上1.5mの高さの気温が0℃になったら点火する。
- ・ 燃焼法を利用する際は、「火災と紛らわしい煙又は火災を発生する恐れがある行為の届出書」などを所轄の消防署に事前に提出する。

イ 燃焼資材

- ・ 霜カット（おがくず：灯油の容量比＝2：1）
霜カット2kgを缶又は袋に入れ、10a当たり40～60個配置する。
- ・ A重油
4リットル缶を利用する場合は、10a当たり30缶以上を配置する。

2 薬剤散布

「ふじの開花直前」の散布時期は4月28日～29日頃である。コンフューザーRを5月中旬に設置する。黒星病、モニリア病の重点防除時期なので、必ず適期に散布する。

牧 草

《生育状況》

- 1 十和田市の生育観測ほの消雪は、平年より3日遅い3月26日であった。
- 2 採草地の施肥作業は、4月上旬から始まっている。
- 3 生育観測ほの4月10日時点の草丈は12.6cmで平年並みである。

【県生育観測ほの生育状況（品種：オーチャードグラス）】

調査地	年次	消雪期 (月/日)	4月10日現在 草丈(cm)
十和田市米田	本年	3/26	12.6
	平年	3/23	11.8
	前年	3/20	18.3

注) 平年値は令和5年までの過去10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

牧草は出穂始期から出穂期に刈り取りし、乾草またはサイレージに調製する。

飼料用とうもろこし

《今後1か月間の主な作業》

1 ほ場の準備

完熟した堆肥を4～8t/10a施用し、プラウ等により土壌とよく混ぜる。碎土や整地が不十分な場合、発芽不良となり欠株が生じやすくなるほか、除草剤の土壌処理効果が劣るので、できるだけ丁寧に行う。

2 は種

10a当たり栽植本数は、極早生品種で8,000本、早生種で7,000本、中生・晩生品種で6,000本を標準とし、5月上旬から遅くとも5月末までには種を終えるようにする。

3 雑草防除

優先雑草の種類に応じて適切な除草剤を選択し、農薬の登録内容等を確認して適正に使用する。